

町老連 理事会開催

晴れておだやかな1月15日(金)10時から町文化センター多目的ホールで理事会を開催、単位クラブ会長など37人が出席した。今回の理事会は、コロナ感染拡大が全国的に多くなった現状から三密に留意し行った。参加者数の制限・時間の短縮・懇親会は取りやめた。

一、会長挨拶



新年明けましておめでとうございます。昨年末から大雪が続いて大変な年末年始になりました。今日の理事会は、例年行なっている新年研修会をコロナ感染対策から平田町長の町政報告会と懇親会を中止して、参集範囲も縮小し1/3程度の人数となっています。

昨年は、コロナの影響で町老連の行事も8月にグラウンド・ゴルフ大会を実施しただけで、あとは全て中止しました。

単位クラブも活動中止が多い中、年一回の研修旅行を楽しむにしているという声も聞かれています。

社協のバスも新しくなったので、是非社協のバスを利用して実施していただければと思います。

とにかくコロナにかからないように、令和三年は皆で楽しい老人クラブにしていきたいと思っておりますので今年もよろしく願います。

二、全老連会長表彰並びに県老連会長表彰状伝達式

会長が受賞者一人ずつ前に出でいただき、表彰状と記念品を手渡した。

記念品は、老連陶芸部の好意による湯呑茶碗と町老連から額が贈られた。

●全老連会長表彰

・育成功労者 大川 雄弘氏 (広報委員長)

●県老連会長表彰

・優良クラブ 久井名館松葉会 (代表 佐藤キクエ) ・個人功労賞

横嶋 正信氏 (俵舂下俵舂長寿会長)

清野草名義氏 (矢沢長寿会長)

小笠原正成氏 (表町長寿会長)

一戸 了氏 (常盤養命会第2会長)

齋藤 恵一氏 (前福館福寿会長)

佐藤 良精氏 (前久井名館松葉会長)

発行者

藤崎町老人クラブ連合会
広報委員会
藤崎老人福祉センター内
電話 七五―三三三―

三、活動報告

コロナウイルスの感染防止のため時間を短縮して発表された。

●全国老人クラブ大会

活動発表団体

レクダンス部

部長 古館容子氏

始めに、全国老人クラブ大会の経緯について説明。

会長・広報委員長にお礼を述べ、レクダンスの活動と歩みなどを発表した。



『人生百年、もう一歩!!』と、笑顔で楽しんでいることや意欲的な活動姿勢に感銘を受けた。

●県老連会長表彰受賞優良クラブ

久井名館松葉会 会長 佐藤キクエ氏



会員数 39名
年会費 千五百円
役員数 10名
松葉会一同のモットーは、『楽しむこと』が一番です。

年間の活動状況について四季を通して詳しく報告があった。

特に社協と協力しての「いきいきふれあいサロン」は毎月15日に行い、芸能発表会・秋まつりの出し物などを皆で相談をして行動した結果、絆が深まった事例が話された。

また、出席者は活動状況が口コミで伝わり次第に多くなり、更に、活動が活発になったことなどが発表された。

11時に閉会、町老連からの特製鯊弁当を持ち帰りで散会した。



出席者全員で受賞者を囲み記念撮影

女性部臨時役員会実施

久しぶりの再会 ゲームで楽しむ

対岸の火事と思っていた新型コロナウイルスに世界中が席巻されてしまい、日常生活あらゆる活動等が自粛や緊急事態宣言で中止となっていました。

その中、女性部は弘前市でクラスター(集団感染)発生以前に三密(密集・密接・密閉)に気を付け「体験コーナー」「健康講話」を開催する事が出来ました。12月19日(日)には、町老連館山会長をお迎えして、令和3年度に向けて役員会を開催しました。

会長からは、「コロナ禍の影響で行事や研修活動が中止されています。不要・不急の外出を控え、手洗い・うがい・咳のエチケット・マスクの着用などに気を付け、楽しく元気に老人クラブ活動を再開できる様に、一日も早く終息するよう、各々が気を付けましょう。」とお話がありました。

また、役員会後の話題は、殆どの役員は、コロナ感染の影響で子供や孫にも会えず、買い物と病院を往復するだけの話になりました。

その後は、ゲームを楽しみました。段ボール箱に大きな穴と小さな穴を開け、この穴にお手玉を投げ入れる単純な遊びなのですが、それがなかなか難しく入らないので、応援する人と一緒に大笑いしました。久しぶりの皆さんとお会いした楽しいひとときでした。

令和3年度は、コロナ感染が終息し、活動が再開されるよう心から祈願しております。

コロナ感染で交流が少なくなっており、運動不足になりがちです。

皆さん体を動かしていますか?

運動不足解消の簡単で場所も取らず、誰にでも出来る運動を紹介します。

①両足を20cm位開いて立つ。

②足の力カトを上げストンと落とす。

③回数は50回程続けます。

これを一日3回位をメドに無理なく行つて下さい。

新しい福祉バス

令和2年12月15日に、藤崎町マスコットキャラクター「ふじ丸くん」「ジャン坊くん」が描かれた新しい福祉バス(日野自動車製41人乗り)が納車されました。これからは単位クラブ・専門部会の研修旅行や親睦会に大いに利用ください。

福祉バスの利用については、今まで通りですが、記載事項や条件は次の通りです。

(一)利用目的

行き先・人数(15人以上)

(二)利用期日

出発場所・発車時刻

(三)利用時間 8時30分～16時30分迄

(四)利用条件 目的地までの時間片道2時間以内

(五)申し込み 利用期日の前月20日まで

※今年度の単位クラブ利用数は3団体で各1回でした。

トランプ大会順延のお知らせ

昨今の新型コロナウイルスの感染状況により、例年2月に実施してきたトランプ大会を順延することになりました。ご了承下さい。

今後は、感染状況を見ながら実施時期を検討します。詳細は「白寿」にてお知らせします。

第45回お楽しみ湯治の会開催中止のお知らせ

今年度も「お楽しみ湯治の会」を企画・検討いたしました。しかし、昨今の新型コロナウイルスの感染状況により、お客様の安心・安全を考えると今回は残念ながら中止の運びとなりました。

弘南観光株式会社

2 月 行 事 予 定 表		
日	曜	行 事
1	月	役員会 10:00
2	火	囲碁・将棋部 12:30
3	水	
4	木	囲碁・将棋部 12:30
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	生け花部 10:30 芸能部 12:00
9	火	日本舞踊部 12:00 囲碁・将棋部 12:30
10	水	茶道部 13:00
11	木	建国記念の日
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	芸能部 12:00 日本舞踊部 12:00 囲碁・将棋部 12:30
16	火	
17	水	
18	木	囲碁・将棋部 12:30 広報委員会 13:30
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	生け花部 10:30 芸能部 12:00
23	火	天皇誕生日
24	水	茶道部 13:00
25	木	囲碁・将棋部 12:30
26	金	
27	土	【白寿】配布日 10時以降
28	日	

先輩に学ぶ

旧藤崎町老連文集「白寿」から

第一号 昭和 57 年度 (八)

教養部の仕事

中野目長寿会 神 集明

昭和五十七年度老人クラブ連合会では、四つの部門を立てて活動の企画にあたることになりました。すなわち体育部・芸能部・園芸部・教養部の 4 部門です。

私は教養部の責任者となり、老人大学・シルバーセミナー・健康講座・各趣味の講座など、老人クラブの主に文化部門の事業の企画実施にあたりました。

老人大学は、昭和四十五年私が公民館館長をしていた当時、公民館で開設したのですが、数えてみると今年で十三回目になります。老人福祉センターのオープンに伴い、公民館から事業の実施を移していただき継続することになったものです。

シルバーセミナーは、やる気十分の老人が頭をフル回転させて学び合う機会としては最高で、老人の社会を見る視野を広げていこうとみなさん意欲的です。五十七年度はこれまで四回、青少年の健全育成、林達夫氏による時事問題・町内の史跡と町の歴史などを取り上げ、どれも予定時間を超過する熱心さでした。

各趣味の講座は参加者の自主的な運営とご指導頂く方々の奉仕で、すっかり定着しました。月曜日のお茶・お花、金曜日の手芸工作、さらに書道など手がけ、さらに今後の充実が期待されます。そしてそれらが風上げ大会や、お茶会、私の主張発表会などに発展していつており、楽しい限りです。

いずれにしても昭和五十七年度は楽しくも忙しい年でした。私自身も老人クラブ連合会の仕事、教養部関係の事業、ゲートボール、中野目長寿会の運営と多忙な一年を過ごすことが出来ました。

高齢化社会が進むにつれ私達老人は、自分の手で自分の老後を考えなければいけないと思います。自分の残った人生をどう味付けしていくか、その手段として老人クラブを大いに活用したいと思っています。

来年度は、焼き物・ビニールハウス（モヤシ栽培）・七宝や染色などの手芸、木工などを盛り込んだ「生きがいと創造の事業」が予定されていると伺っています。団体で、個人で是非一人でも多く参加され、多忙の中に老後の充実につとめられるようおすすめいたします。

(筆者 老人クラブ教養部長)

下北正津川 優婆寺の和尚さんの詩

一 人生五十は 昔だよ
今や六十は まだつぼみ
七十八十は 花ざかり
百でようやく 実を結ぶ

二度得られぬ

この命

朝毎夜毎に

この命

生きるしあわせ

感謝して

みんな仲よく

くらそうよ

流るる水は

くさらない

水るひまなし

水車

体も頭も

ほどほどに

使って生きよう

百までは

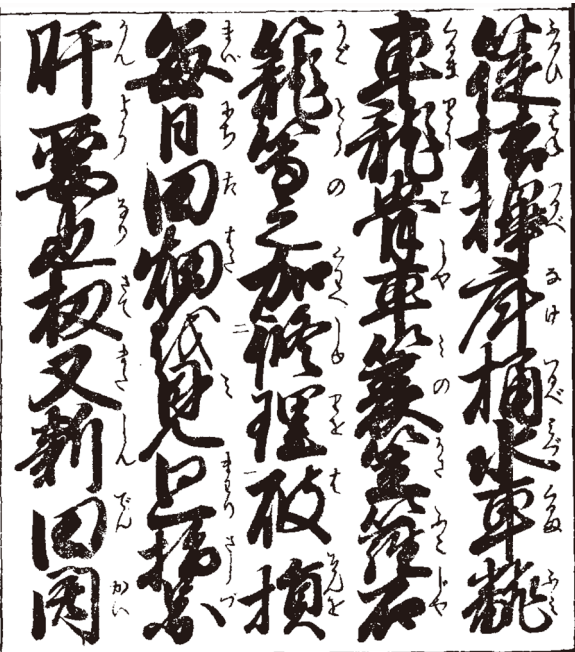
(鉄道唱歌の替え歌)

古文書に学ぶ (3)

【百姓往来】江戸書林版 ③

第三回目は、先回と同じく田畑耕作等の道具類の紹介の続きと、新しく農家の心構えや仕事の内容が加わりますので少しは、農民の生活の一端が分かると思います。今回は、農業で最も重要な灌漑用の道具や設備で、水不足に対応したものです。

図面は、主に資料中から選定し、不足分は広辞苑・字源等の辞書も参照使用した。どうか図の中の道具と本文を組み合わせてご覧下さい。



【百姓往来絵抄】 国立国会図書館デジタルコレクションより使用した。

漢字文

籐枯桿 厚桶 水車 翻
車 龍骨車 簀笠 籬石
籠等之加修理 破損
毎日田畑越見廻指図
肝要也 扱又新田開

読み下し文

籐枯桿 厚桶 水車 翻
車 龍骨車 簀笠 籬石
籠等之破損に修理を加え
毎日田畑越見廻り指図
肝要也 扱又新田開

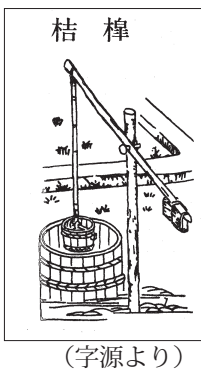
◆主な道具の説明

藩政時代には、用水の設備が十分でなく、夏期には日照りで渇水がしばしば発生した。それを解消するため、井戸や水路から揚水し田畑に灌水した。

揚水するための道具には水車を使った大がかりの物ばかりでなく、持ち運びの出来る小回りの道具が開発された。

◇桔 槔

井戸から水を汲む道具。おもりがあるので楽に汲むことが出来た。



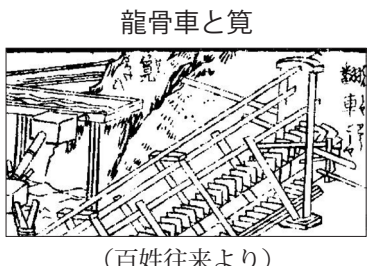
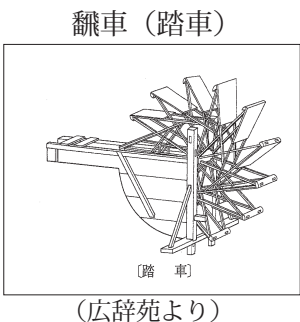
◇肩 桶

用水路から田畑に水を汲み入れる道具。桶に縄を付け、二人で水を汲み、呼吸を合わせ田に水を投げ入れた。



◇翻 車

踏車ともいう。足で踏み付け田へ揚水した。



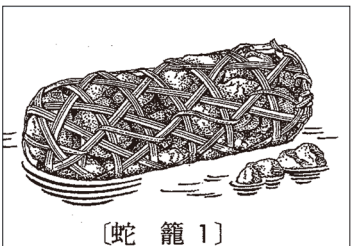
◇龍 骨 車

前項と同じ目的で揚水するが、かなり大型の物で、二人で自転車のようにはクランクを手で回転させ、長い距離を連続して揚水した。

◇籬 籠

蛇籠とも言い水流を弱くして、護岸のために使われた。当時の物は、竹製や縄製で籠の中には石を詰め

て重くし、流れないようにした。この技術は、現在でも使われ、針金の籠に石を詰めている。用水の取り入れ口付近の堤防に設置しているの、皆さんもきつと御覧になっていると思う。



◆農民の心得

道具類の説明が殆ど終わり、今回資料の三行目より、農民のなすべき心得が登場した。
(一) 農具の破損修理を行うこと。
(二) 毎日田畑を見廻り、水加減や気がついたことを指図すること

(三) 新田の開発、地ならしを済ませること。
今回のところは、途中で終わっているが、次回からは、検地に係わる事項が出てくる。
新田開発、地ならしが終わったら、検地に入り、持主・名主の計測を受け、検地の手続きをするよう詳しく説明されている。

◇ 歯なしの話 107 ◇

一 齢一 佐藤 透

数え年で今年 70 歳(古希)になる。実に父親の亡くなった年を超してしまった。

確かに子供としては目出度いことなのだが、難敵が一人居る。それは母親である。今年 94 歳になるが健在である。背が小さく太っていない、いわゆる長生きしそうな体型である。

私自身にしても昔でいうと古希なので長く生きた方であるのに、今どきの老人達は平気で百歳まで生き永らえる(失礼)ので、子供の私達が先に天に昇る可能性が出て来た。案の定、私のすぐ上の兄が昨年 72 歳で亡くなった。今時は人生百歳なのでこういう現象が起きてしまう。まあ、私的には 70 歳まで生きられたのだから、案外と御の字であるが。

実際の所、経済の方は 80 歳位までの計算しかしていないので、万が一の場合は少しだけ心配ではある。時々公務員の歯科医師になっておいた方が良かったかな、などと軽く後悔してみたりするが、この齢まで来るとどうにもならないので尻をまくるしかない。

詰まる所マイッタするまで仕事をするしかないという結論に達する。ただ少しづつだが、仕事量は減るかも知れない。その折は皆様宜しく御願いたします。と今朝突然として徒然にこんな文章を書きたくなった。他意は無いので悪しからず。

◇◇ 川 柳 ◇◇

帰省なく主婦が鑑の寝正月

高木アツ子

鈴木 てつ

菓子売場避けて通るがまだ三日

三浦 進

見栄張らず質素な暮らし白寿まで

石動 弘一

一合瓶七勺入れて和解する